

寄贈品コーナー

「小絵馬の世界～菅間荘氏コレクション～」

会期：2006年 12月13日（水）～1月30日（火）

小絵馬（こえま）とは読んで字のごとく、大絵馬にたいする小さな絵馬です。大絵馬は神社の拝殿などの鴨居に掲げられた立派な絵馬で、歴史美術的価値も有するものです。小絵馬は吊り下げ式で、今もお正月に神社や寺院でさかんに奉納されています。干支の動物を描いた絵馬に、「合格祈願」「良縁祈願」「健康祈願」などの願文を各人が記して奉納します。



図1 母子拝み

展示した小絵馬は、平塚市岡崎在住で、当館初代館長でもある菅間荘さんが、長年にわたり全国各地から収集されたコレクションの一部で、平成18年8月に博物館へ寄贈していただきました。また、2007年の干支にちなみ、館蔵資料から猪の現代絵馬と郷土玩具も展示しました。

◎写真説明

図1 母子拝み

拝み絵馬は小絵馬の最も基本的モチーフ。とくに、女性が一人で神仏に拝む図が多い。これは幼子を抱えた母子拝みの図で、子授けの祈願か、子を授かったお礼に奉納したものかもしれません。

展示したのはちょっとむかしの伝統的な小絵馬。昔は絵馬屋さんが一枚一枚手書きをしたので、現代の絵馬と比べてみると絵柄がバラエティーに富んでいます。今の絵馬は印刷なので、ずらっと同じ絵柄が並んで、猪ならぜんぶ猪。

昔の小絵馬は手作りのぬくもりがあります。人々はどんな願を神仏にかけたのか、絵柄から推理してみるとおもしろい。意味が判らない絵もありますが、そこに絵解きの楽しさがあります。さまざまに想像をめぐらしてご覧ください。加えて、人々が神仏にすぎた思いを感じとっていただければと思います。



図2 母子入浴

図2 母子入浴

入浴絵馬の解釈はふたつ。ひとつは、お風呂嫌いの子どもを直してもらいたいとの祈願。もうひとつは、お陰様で病が癒（い）えてお風呂に入れるまで良くなりましたと感謝を表したもの。さて、この絵馬はどんな意味で用いられたのでしょうか。

図3 向かいめ

昔は囲炉裏（いろり）の煙でいぶされたり、夜暗い中で針仕事をしたりしたために、目を患う人が少なくありませんでした。そのため、お薬師様などには眼病治癒の願掛け絵馬がたくさん奉納されていました。両眼がぱっちり見えるようになりますようにと。



図3 向かいめ